

地域学の視点を生かした学校教育・生涯学習



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 教授

佐瀬 一生 Sase Kazuo

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 地域学・グローバル・地域史・地域地理・おもしろ半島ちば・フィールドワーク



研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

「学校と地域の連携」「地域の実態を生かす」等の言葉にあるように、「地域」は学校教育における重要な視点である。例えば小学校社会科では第3学年で「自分たちの市を中心とした地域」を、第4学年で「自分たちの県を中心とした地域」を学習対象にして内容を構成している。また、小・中学校の総合的な学習の時間、高等学校の総合的な探究の時間においては地域のモノ・コト・ヒトを課題にした探究学習が多くおこなわれている。また、生涯学習の場においては、地域に根差した諸活動が展開されている。

本研究では、地域学の視点を学校教育および生涯学習に生かすことについて、特に以下の点から考察し実践化を図るものである。

学校教育においては、学校の「芯」に「地域」を据えることである。具体的には「地域に根差し、世界につながる教育」として「グローバル（ローカル＋グローバル）教育」を中心に置き、カリキュラム編成をおこなう。日本においてグローバル教育はまだ一般的ではないものの、その重要性・有効性に目を向けた学校が小・中・高・大の各学校種で出始めている。まずは、小学校社会科「内容の取扱いの配慮事項」にある「地域素材の教材化」「地域での学習活動の場の設定」「地域人材の積極的活用」を各学年・教科にできることをできるところからできる範囲で広げていく、という考え方から始めていくことである。

生涯学習においては、特に千葉県をフィールドとした地域史や地域地理の立場から、具体的素材を幅広く取り上げ紹介したり、実際に現地に赴いて活動するフィールドワークプログラムを策定したりするものである。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【学校教育】

学校に求められる「〇〇教育」は数え切れないほど多くある。それらを総花的に取り込もうとすると、教育活動は羅列的になり、ただ「こなす」ことに追われがちになる。1つの「芯」を据え、その芯に関連付ける形で他の「〇〇教育」を配置することで、教育活動は構造的に展開できる。その「芯」として「グローバル教育」は極めて適しているといえる。その「地域をベースに世界につなげる」考え方は、国際理解だけでなく、福祉、人権、環境、情報、政治、経済、文化、芸術などあらゆる面に適用できる。グローバル教育の視点から学校教育を構築し展開することについて、文部科学省教育課程特例校（2019年度指定）経験も活かし、可能であれば実際の市町村教育委員会・学校と関わりながら進めていくことができればと考えている。

【生涯学習】

現在も千葉日報紙上において「駅から2kmのおもしろ散歩」コラム掲載をしているが、千葉県というフィールドを「おもしろ半島ちば」の言葉で表し、その多様な魅力を発信していきたい。生涯学習に係る公開講座等でも対応可能である。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「教員養成学部における「地域の教育」に関する授業の意義と実際」
- ・「地理から学ぼうちばの魅力 おもしろ半島ちば」・「同2」・「同3」
- ・「おもしろ半島ちば 駅から2kmのおもしろ散歩」